

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスセンターこころね		R 8年2月5日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用者は1日10人までとし、パーティションや家具、畳で境界を作り活動を分けている。	利用者様の特性に合わせて都度環境を見直す。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		安全を第一に活動内容に合わせて職員・支援者を増員している。	活動によっては法令で定められている以上に支援者を配置し事故防止に努めている。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		聾唼児、全盲児もおられますので皆が安全に過ごせるように場所の確保や支援者の配置に配慮している。	手すりなどは無いが手すりが必要な利用者様には付き添い支援を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		感染対策の為、ソリューションウォーターにて玩具や備品の拭き上げ、空気清浄機の活用を行っている。	畑作業時の泥問題
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		○	いくつも個室が有るわけではないが、パーティション等で部屋を仕切り個別のスペースとして提供している。	複数の児童が個室を必要とした時の対応策では外出や送迎車を用いて対応。今後も課題として環境整備に努める。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		定期的に課題を支援者間で共有し、チーム支援を念頭に置いて取り組んでいる。	職員のみならずパート支援者にも役割を配し業務に参画しやすい環境づくりを目指し仕事量の偏りがないようにも努めている。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		忌憚ない意見を頂けるように信頼関係を築く様に努めている。	色々と率直なご意見を頂いたので業務改善に活かしたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎朝のミーティング、月例会議、昼食時等、意見が出しやすい環境を設け安心して話せるように努めている。	支援スキルのばらつきをカバーするチームケアの向上や支援者の個別の役割等の確認。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部講師を招き、虐待や身体拘束防止研修、感染症対策の研修を実施。資格取得のための研修も参加。事業所間でも研修機会を設けている。	ご利用者様の特性を理解するための研修や意見交換の機会を増やしていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		HPIにて公表しております。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		年度ごとにアセスメントを行い保護者様の要望、子どもの希望を取り入れ将来を模索しながら計画している。	支援の見立てがずれていないか都度支援者間で協議し都度計画の見直しを行う。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		毎月支援者が集まり、支援計画の見直しを行っている。	月によっては人数の多い少ないの偏りがあり、時間的な制限を受け検討時間に余裕が持てない時もある。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援計画は支援者間で共有し日々の活動は支援計画を踏まえ企画し工夫しながら支援を行っている。	計画書に書ききれない事柄などの共有が難しいと感じる時がある。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達検査結果や日々の過ごし、ご家庭での過ごしや学校での様子をつつめ共有し支援に役立てている。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		小学生が多く移行支援の前段階の学齢期の支援が多くなっているが将来を見据えて家族支援を絡めながら行っている。又、地域でのお買い物や地域のコンビニなどで就労体験を提供したり公共の乗り物を使用する支援等も行っている。	大声で叫んだり外食先での多動など地域支援や地域連携にまだまだ課題を感じている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		日々、活動内容が偏らないように5領域を意識しながらチームで行っている。	多様な特性の利用者に対し集団支援の難しさを感じる。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		利用者の特性や心理状態をそれぞれの支援者が持ちよりチームで支援内容を決め固定化しないように工夫している。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		5領域を意識しながら立案するように努めている。	利用者に合わせた個別活動の引き出しがもう少し増える様に研修などを重ねたい。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		開始前に流れや役割を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		時間の余裕があれば支援終了後に振り返りを行うが時間の制約が有る為翌日に振り返りをする事も有る。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		出来るだけ支援終了後直ぐに記録する様に心がけ支援者間で共有し、次の支援のヒントとしている。	記録の時間や記録方法に改善出来る事が無いか検討したい。業務改善に繋がる様にしたい。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に一度モニタリングを行い支援計画に反映している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		主に日常生活動作の獲得を意識し支援を行っている。地域交流の機会として畑で栽培した作物を地域で販売出来た。	高校生への支援として、電車やバスの乗り方支援、複雑になっている支払い決済支援、買い物支援などの工夫を重ねたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		オープンな質問、クローズな質問を使い分け自己決定しやすい環境を提供している。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参画するが事前に支援者とミーティングを行い細部にわたり状況を把握する様にしている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関と連携している。又地域の放デイや障害福祉施設とBCPでも連携を図っている。	更なる連携機関の掘り起こし。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者、学校と連携を図って行っている。必要に応じてケース会議に参加している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。		○	計画相談員様とは情報共有したが、利用施設には行けなかった。	来年度は情報共有を図りたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	今年度は対象者がいない。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		草津市の発達支援センターと連携を図っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域の子供達との交流を望まれない保護者もおられる。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		今年度から意欲的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や連絡帳を通して状況の報告、自宅での様子の共有をしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	保護者会として勉強会を開催した。家庭によっても困り事が多種多様となり、難しさを感じ、実施に至らなかった。	ニーズに合わせ研修の機会を持ちたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用者負担などのご質問などありましたら誠意をもって説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		アセスメント時に保護者様のご意見を承り、利用者にも意思確認している。モニタリング報告時、保護者様に再度要望確認している。	面談時に色々とお話していると保護者様の要望などを細かく拾えるので面談や送迎時の報告を大切にしたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		説明を重ね同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		信頼関係をもとに助言を行っている。直ぐに最適解を提案できなくても常に助言する様にしている。	対人関係、距離感など利用者様の年齢が上がるにつれ支援が難しい場面も増えているので学習会などを開催したい。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		来年度に中学校に進学される保護者様が多いので保護者会で交流できるよう企画した。初めて参加された方もおられ交流も持たれ活発な意見が聞かれた。	日程や内容、子どもの預かりなど課題は多いと感じるが、開催する事の大切さも実感としてあるので保護者様の想いなどを傾聴しながら企画したい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応体制を機能させ、迅速且つ適切に事実を把握し正しく対応すべく心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		季節ごとに機関紙、ホームページにてブログで活動内容を紹介している。	ブログの更新がもう少し増える様に工夫をしたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の大切さを支援者全員に伝え説明している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		必要に応じて別途時間を設けたり場所を移して配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域の方に畑作業のアドバイスをもらい農福連携を目指している。又神社へのお参り、お寺での行事参加も意欲的に行っている。	地域の中にどんどん入り何が求められているか、何が出来るか色々トライしたい。地域の飲食店での食事なども楽しみ貢献したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			保護者様への周知の工夫を重ねたい。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し半年に一度見直しを行っている。	他事業所とも連携を広げてゆきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメント時に確認をしたり都度保護者様と連携を図り服薬量等も情報共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	保護者様から細かく指示を頂いたり質問をしたりして必要に応じて医師の指示書を要請する。	医師の指示書が必要になれば指示に従う。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、草津署生活安全課による不審者対応研修、アレルギー反応対応、救急訓練等を実施	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			周知徹底できるようにブログや機関紙、面談時などを活かして周知していきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		定期的にヒヤリハットを振り返り再発防止に努めている。	多忙でヒヤリハットの記入が少ない時は敢えて支援者間でヒヤリハット記入を声に出して記入を怠らない様にして事故や虐待防止に役立てる。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		外部講師を招いての講義や研修参加、草津市の研修等、内容が偏らない様に機会提供している。研修振り返りも行っている。	毎年度、大切な研修や学習の機会と捉え、支援者全員が参加出来るように調整している。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		公道への飛び出しなどが予測される利用者の保護者様には面談などで説明し支援計画書に記載している。	